

この学校にわたしたち

2023. 2. 10

N061

記憶に種をまいて育てる

秋、児童学習会の活動として地域の方の畑をお借りしてさつまいも掘りをさせていただきました。立派なさつまいもをたくさん収穫することができ、子どもたちは大喜びでした。先日、2年生がジャガイモを収穫し、こちらも大きなジャガイモをたくさん収穫でき、一部給食の食材として全校でいただきました。それに

対し、我が家のさつまいもは畑が水没したせいもありますが壊滅状態でした。違いはその土と日頃の手間にあることは言うまでもありません。

詩人の長田弘さんは“記憶”について「記憶は過去のものではなく、現在も体の中にとどまっていて土壌となっている。そしてその土壌に種をまき、育てていくのが人生である」と言っています。“記憶”というものが過去のものであると私は考えていましたのでこの考え方に驚きました。記憶には良いものと思い出したくないものがあるかもしれません。しかし、それらすべての記憶の入った土壌を耕し続けていくことで、豊かになり、将来、その土壌が大きな花や実につながっていくのでしょうか。あっという間に1月が過ぎ、今年度もあとわずかとなりました。私は、小学校時代は学習面・生活面においてこの土壌をしっかりと耕していく大切な時期であると考えています。6年生にとってはあと1か月少し。豊かな土壌となる“良い思い出”を作っていけるよう、そしてそれを耕し・育てようとする“意欲”を持たせられるよう職員一同努めてまいりたいと思います。

子どもに思いを馳せること…

1月末、寒気の影響で気温の非常に低い日が続き、雪も3日連続降りました。27日、私が校長室で市教委とオンラインで話をしている時、大雪の降る中、2年生が傘をさしてハッ山神社の学習に出かけていきました。オンラインでの話を終え、職員室に出ていくとある職員から「校長先生、2年生の教室を締め切って温めておきました」と言われました。職員は子どもが帰ってきた時のことを考えて行動してくれたのだととても嬉しい気持ちになりました。人を大切にする教育は、どこまでも子どもたちに思いを馳せ、(甘やかすのではなく)大人がどう行動していくかにあると思います。こういう行動は無言で子どもたちに必ず通じ、将来、また子どもたちが大人になった時、こういう行動ができる大人になれると信じます。人を大切にする教育…広げていきたいと思います。

